

2000-2001 年度国内 PC (IA) サーバ出荷状況調査報告

ノークリサーチ (本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5 : 代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL : <http://www.norkresearch.co.jp>) では 2000 年度国内 PC (IA) サーバの出荷状況を調査した。

2000 年度実績、2001 年度の予測も併せて調査、報告している。

<2000 年度 PC (IA) サーバ市場のポイント>

2000 年度 PC (IA) サーバ市場は大幅増加を達成

- 対前年比 32.5% 増で、286,500 台を記録
- 金額市場は 12% の伸び。低価格サーバの伸び絶好調

インターネット関連需要 (中堅・中小企業、iDC、ISP) が伸びを支える。定着した専用サーバ用途で、複数台導入企業急増。

ラックマウント型サーバ急増で、全体の約 30% を占める

メーカーシェア NEC 1 位変わらず、2 位大混戦、デル急追

2001 年度は 22.3% 増の 35 万台市場へさらに拡大予想

2001 年度以降はミッションクリティカル、技術分野へも市場展開

対象期間： (2000 年度実績) 2000 年 4 月から 2001 年 3 月。
(2001 年度予測) 2001 年 4 月から 2002 年 3 月。

対象メーカー：電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカー
日本電気、日本 IBM、富士通、コンパックコンピュータ、
日立製作所、日本 HP、東芝、三菱電機、デルコンピュータなど

対象機種：電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

調査方法：当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査期間：2001 年 5 月～6 月

当調査データに関するお問い合わせ

Superior Market Research
and Analysis
For IT-Strategy
Nork Research Co., Ltd

ノーク・リサーチ
担当：伊嶋 謙二

e-mail: pressr@norkresearch.co.jp
〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4 - 12 - 5 - 502
電話 5629 - 2163 FAX 5629 - 2164

URL: <http://www.norkresearch.co.jp>

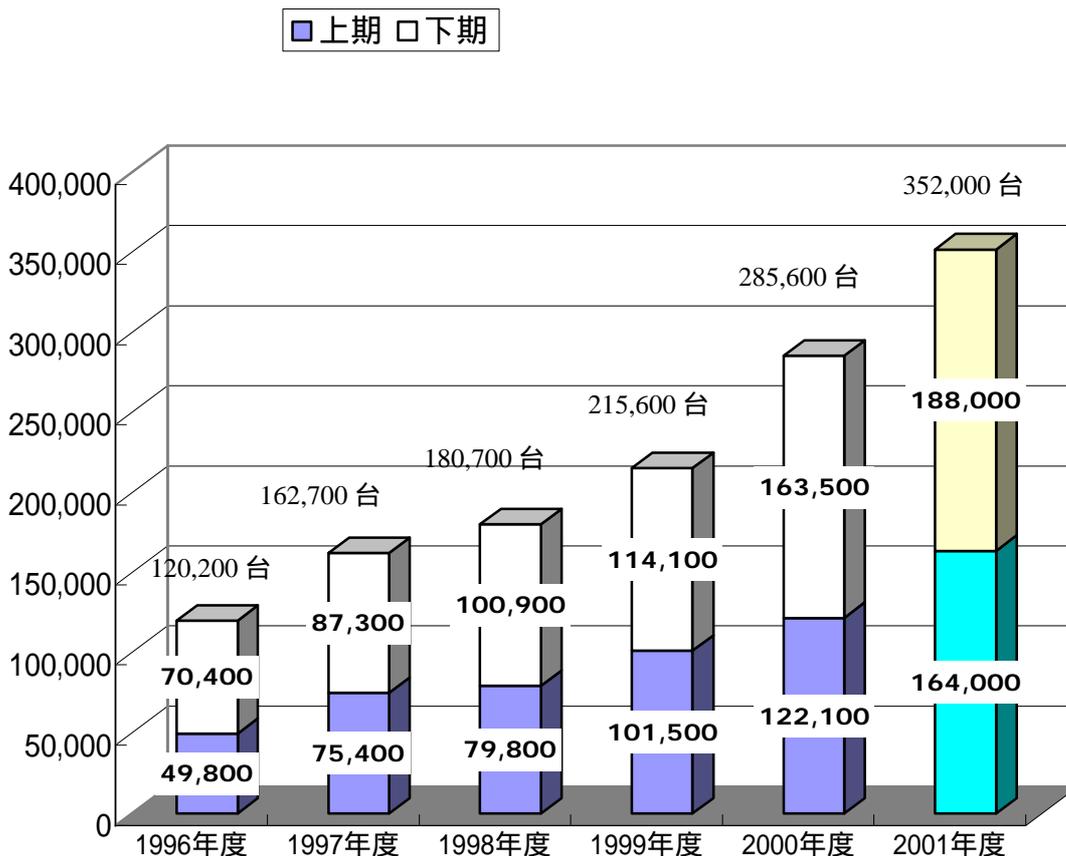
[2000 年度出荷状況]

285,600 台前年比 32.5% の伸び

2000 年度上期は台数で 122,100 台、前年対比 20.3% 増だった。Y2K(西暦 2000 年対応)後の反動で 4 月から 6 月までは需要が鈍かった。特に NEC、富士通などの基幹系ユーザを多く持つメーカーに影響が出た。逆にコンパック、デルは情報系需要で上期前半は絶好調であった。

下期は企業のインターネット需要を中心とするサーバ需要とさらに需要が高まり、中堅・中小企業や官公庁、自治体など広範囲で普及にドライブが掛かったこと、ASP、ISP、IDC などへの大型設備投資が顕在化し、2000 年下期は対前年比 43.3% の大幅増の 163,500 台となった。結局 2000 年度全体としても 97 年度に記録した 35% 増に次ぐ大幅な増加を見せた。285,000 台で、台数で 32.5% 増、金額では 12.2% 増となった。

PC (A)サーバ総出荷台数推移-2000年度実績-



[2000 年度市場の特徴は次の 5 点]

2000 年度上期は Y2K 明けの反動で基幹系導入の動きが鈍く、同様に経済環境の継続的な低迷が基幹システム導入に影響を与えた必ずしも好調な滑り出しではなかったが、中堅・中小企業などの旺盛な IT 化投資が市場を支えた。

- インターネット、イントラネットなどの情報系利用は堅調に推移
- 中堅・中小企業での URL、e-mail などの情報系導入は活発
- ASP、IDC、ISP などのインフラ投資での需要が急増
- 外資系金融や製造業を中心とした需要は年間を通じて堅調
- 新 IT (CRM、ERP、DWH、SFA) への導入意欲が増加した

2000 年度は PC・IA サーバのちょうど転換期にあたる時期だった。基幹系システムは新システムへのリプレースのための準備時期であったが、インターネット、イントラネットなどの企業の情報ネットワークインフラ整備の需要が高まりをみせて、全体としては、情報系利用が市場を活性化させた。

基幹系へのシフトは整備されつつあるネットワークとのフュージョンという形で 2001 年に引き渡した格好になった。

「国内 PC (IA) サーバ出荷推移」

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
1996年度実績	49,800	-	70,400	-	120,200	-
1997年度実績	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
1998年度実績	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
1999年度実績	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
2000年度実績	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
2001年度予測	164,000	134.3%	188,000	115.0%	352,000	123.2%

[2000 年度メーカーシェア]

- NEC が若干シェアダウンもトップ変わらず、2 番手混戦、デルの大躍進

メーカーシェアでは NEC が依然トップ。若干シェアダウンも 25.6% のシェアで 2 番手メーカを大きく引き離している。全国の地域販売店と安定した直販パワーと幅広い製品対応が同社の強みだ。NEC の上期は Y2K の反動による市場対応で若干出遅れたが、下期は強い流通/官公庁への直販と全国のチャネル総動員によるエントリ系中心の展開と中小企業への基幹系攻略で盛り返した特にラックマウント型サーバが好調だ。

2 番手は混戦だ。富士通、IBM、コンパックの 3 社がほとんど差の無いシェアで激戦となっている。その要因は IBM の大型商談による実績と、コンパックの低価格サーバによるチャネルと直販攻勢に、富士通が攻め立てられた格好となった。この 3 社は 14% 台のシェアでほぼ横一線に並んでいる。富士通の目立った攻勢がみられないのも混戦の要因だ。

さらに 2 番手に肉薄して急進したのがデルだ。台数シェアでほぼ 10% を獲得しており、いずれ上位陣に追いつくだろう。デルは、直販による中堅規模企業・部門サーバや IDC、ISP ユーザに的を絞った、「価格訴求」で奏効している。ただ大型物件とソリューション提案で弱い面が課題。

[2001 年度出荷見込み]

- 対前年比22.3%の伸び、352,000 台 -

2001 年度低価格サーバを中心とする中堅・中小企業向けのソリューションが活発で、ラックマウントタイプも好調に推移しており、安定的に企業規模に関係無く需要が拡大するだろう。特にラックマウントタイプは2001 年度全体で40%を越えるウェイトとなることが予測される。一方アプライアンス系のサーバも2001 年下期からソリューション提案つき販売で導入進むだろう。

またミッションクリティカルな分野でも IA64 搭載のハイエンドマシンの登場で、好調な UNIX と競合することになるだろう。また科学技術系やクラスタ、フォールトトレラントなどの分野も有望な開拓市場だ。大規模から小規模までの PC (IA) サーバとしての守備範囲は2001 年に大きく広がることは間違い無いところだ。

2001 年度は2000 年度対比22.3%増の352,000 台規模の市場へとさらに拡大することが予想される。

「PC (IA) サーバ2000 年度メーカーシェア」

